主催：一般社団法人 建設イノベーション推進機構 IPAC Innovation Promotion Agency for Construction

※本セミナーはJCCA「CPD」プログラム登録講習です

北の大地を育んだ川との共生 治水と利水の技術史Ⅰ

～ 石狩川治水史と これからの治水への新たな取組 ～

日　時	令和３年（2021年）7月5日（月）12:55～17:05
開催場所	zoom（WEB 会議アプリ）にて開催予定
申込方法	弊社団ホームページの受付フォームからお申し込みください

zoom Web セミナー
受講無料
定員500名

講演会次第

開会挨拶	12:55～13:00	一般社団法人 建設イノベーション推進機構 代表理事　金澤 義輝
基調講演	13:00～14:00 終了後質疑応答５分	**「石狩川治水 110 年と今後の方向」** 伊藤組土建 株式会社 代表取締役副社長　元 北海道開発局長　鈴木　英一　氏
講演・１	14:05～14:55 終了後質疑応答５分	**「石狩川治水と岡崎文吉」** 北海道産業考古学会 会長　一般社団法人 建設イノベーション推進機構 特別顧問　山田　大隆　氏
	15:00～15:10	休　憩
講演・２	15:10～16:00 終了後質疑応答５分	**「気候変動への適応を目指した新たな治水対策」～北海道の先進的取り組みについて～** 室蘭工業大学 大学院 工学研究科 教授　中津川　誠　氏
講演・３	16:05～16:55 終了後質疑応答５分	**「北の縄文世界と大規模記念物」** 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター 理事長　長沼　孝　氏
閉会挨拶	17:00～17:05	一般社団法人 建設イノベーション推進機構 副理事長　渡辺 邦夫

主　催：一般社団法人　建設イノベーション推進機構
共　催：公益社団法人　土木学会　土木史委員会、北海道産業考古学会
協　賛：岩田地崎建設㈱、伊藤組土建㈱、㈱草別組
㈱ドーコン、㈱構研エンジニアリング、㈱開発調査研究所、㈱シン技術コンサル、
日本データーサービス㈱、北海道土木設計㈱ 、アースコンサルタント㈱、新和測量㈱
㈱アイ・ティ・エス
後　援：北海道開発局、北海道、札幌市、北海道河川財団、石狩川振興財団、
北海道開発技術センター、北海道道路管理技術センター、北海道建設業協会、
北海道建設技術センター、建設コンサルタンツ協会北海道支部、日本技術士会北海道本部、
北海道測量設計業協会、北海道新聞社、北海道建設新聞社、北海道通信社 （順不同）

お申込みはこちらから

IPAC 一般社団法人 建設イノベーション推進機構
https://www.ipac.or.jp/2021

北の大地を育んだ川との共生 治水と利水の技術史 Ⅰ

～ 石狩川治水史と これからの治水への新たな取組 ～

講演会の主旨・概要

明治以降、北海道開拓を目指して入植した多くの人々は、度重なる水害に見舞われつつも治水技術による安全な居住地の確保と土地の改良を図り、いまや全国トップクラスの農畜産物生産量を誇る北海道の基盤を培ってきました。この発展を支えた治水技術の歴史的変遷について石狩川を事例として学びます。

一方、近年、地球規模の気候温暖化の影響とみられる異常な風水害よる被害が相次ぎ、将来の気候変動に向けた新たな治水対策への取組みが進んでおり、その現状についても学びます。また、現在の豊かさの背景にある近代的治水技術を担った先駆的技術者の思想・功績と共に北海道に広く先住した先史の人々の自然との共生・関わりを今一度振り返り、北海道の未来に向けた持続的発展性を考える礎にしたいと思います。

※ お知らせ：本講演会に引き続き、次回 2022年（令和4年）予定の講演会では、利水の視点からみた「技術史 - Ⅱ」を開催予定です。

基調講演 ：「石狩川治水 110 年と今後の方向」

明治 2 年、新政府はロシアの南下を防ぎ、国家の利益を得ることを目的として北海道の開拓を決定しました。その中心舞台となったのは石狩平野でした。広大な泥炭性湿原でしたが多くの開拓民が入植しました。そこを襲ったのが大規模な洪水でした。本講演では、石狩平野で繰り広げられた先達の 110 年間の洪水と治水の戦いの歴史を追いながら、流域発展の経過を確かめ、さらに近年の気候の激甚化に立ち向かう次世代の治水について紹介します。

講演 1 ：「石狩川治水と岡崎文吉」

ケプロン提言による北海道開発は、技術史的には植民地開発型技術の展開として、輸送体系の拡充史と従事した海外技術導入の土木人脈形成で見ることが重要である。開拓中心地札幌の基盤形成の明治前本州土木技術導入での大友亀太郎、札幌農学校２期生で西欧留学帰国後教官で西洋運河技術導入発展の広井勇、後継者岡崎文吉、北海道帝国大学（現 北海道大学）土木工学科の系譜で見る。岡崎は札幌石狩長沼運河、石狩川改修舟運体系構築を手掛け、以後の鉄道輸送時代の基礎形成を行なった。この発展史を岡崎の生涯思想で寸描し、今日的意義を述べる。

講演 2 ：「気候変動への適応を目指した新たな治水対策」～北海道の先進的取り組みについて～

近年、気候変動の影響とみられる豪雨災害が深刻化している。北海道も例外ではなく、2016 年 8 月の台風被害は、今後の河川整備と地域の安全のあり方に大きな課題を突き付けた。明治以来進められてきたハード整備中心の近代治水の在り方が、地球規模の水災害の激甚化により、転換期を迎えている。講演では気候変動によりどのような被害が想定され、それに対する方策（気候変動適応策と称する）に何が考えられるかを紹介する。

講演 3 ：「北の縄文世界と大規模記念物」

縄文文化は、狩猟・漁労・採集で定住生活を行い、自然と調和・共生し、土器や土偶にみられる豊かな精神世界を伴い、日本列島で 1 万年以上も続いた、世界に類のないもの。環状列石などの「大規模記念物」には、「腹の足しより、心の足し」、つまり、祖先や子孫との絆を大事にする縄文人の心が反映。人が作り出す様々なハードには限界がある。それを補うのがソフトの世界。未来のため、我々は縄文の心に学ぶこともあるのではないだろうか。

参加お申し込み方法

以下の URL にアクセスして、専用の申込フォームよりお申し込みください。
お申し込み期限は 6 月 25 日金曜日までとさせていただきます。

https://www.ipac.or.jp/2021

お問合せは Mail にて承ります　Mail：ipac-info@ipac.or.jp

一般社団法人
建設イノベーション推進機構
IPAC Innovation Promotion Agency for Construction